＜県小教研　研究部の取組＞

平成２３年度　長岡市三島郡特別活動教育研究会

１研究主題

望ましい人間関係を形成し，自主的・実践的な態度を育てる特別活動の工夫

２　主題設定の理由

新学習指導要領では、特別活動の目標に「人間関係を」という文言が追加された。各活動・学校行事ごとの目標も新設され，その中に「望ましい人間関係を形成し」とある。集団活動を通して，互いにかかわり合いながら，望ましい生活や人間関係を築こうとする自主的，実践的な態度をはぐくむことが求められている。

また，特別活動に関連し，長岡市は，平成２３年度長岡市学校教育の努力点の柱の一つとして「熱中・感動体験活動を充実する」を設定し，「子どものやる気や学ぶ意欲を引き出し，豊かな人間性を涵養するためには，熱中や感動につながる実体験の機会を充実させていく必要がある。子どもや地域の実態に応じて，意図的に熱中・感動体験活動を教育課程に位置付ける。」としている。

このような，新しい時代の要請や特別活動で期待される取組を踏まえ，特別活動で最も重要視されている，自主的・実践的な活動の充実に焦点を当てる。その活動が望ましい人間関係の中で展開され，明るく，楽しい学校生活を実現し，心豊かでたくましく生きる児童生徒の育成を目指していきたい。

以上のような視点に立ち，上記主題を設定した。

３　研究内容

児童生徒の活動分野を取り上げ，望ましい人間関係を築き，自主的・実践的な態度を育てるための教師の指導や支援の在り方について実践を通して明らかにしていく。

４　研究方法

（１）　会員が，個人または共同で実践研究を進める。

（２）　研修会を開催し，研究協議を通して研究を深める。

５　本年度の取組

（１）　研修会

１０月７日（月）に開催される中越地区特別活動部会（会場校：長岡市立寺泊中学校）の研修会に参加し，公開授業，研究協議を通して，小・中学校部会合同で研修を深める機会とする。

（２）　研修会内容

（別紙）

中越地区特別活動部会　　［会場校　長岡市立寺泊中学校　１０月１７日(月)］

長岡市三島郡中学校教育研究会会長　**長谷川　浩司**
長岡市立寺泊中学校長　**伊藤　明夫**

１　研究活動の概要

研究主題	**「望ましい人間関係を築くことができる生徒の育成」** ～ Q-U 調査を活用したよりよい人間関係づくりをめざして ～

（１）研究の概要

研究発表　佐藤　靖(長岡市立寺泊中学校)

【研究仮説】Q-U 調査から判明したプロット図をもとに，要支援群・不満足群・侵害行為認知群にある生徒に適した SST 及び SGE 等の技法を駆使して，全職員が知・徳・体のプロジェクトでアプローチすることにより，望ましい人間関係を築く生徒を育成することができる。

注釈：SST(ｿｰｼｬﾙｽｷﾙﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ)SGE(構成的ｸﾞﾙｰﾌﾟｴﾝｶｳﾝﾀｰ)

生徒同士のよりよい人間関係づくりのために本校では，４年前から Q-U 調査を取り入れ，人間関係のプロット図を分析調査し，学級満足群に移行できるために必要な SGE や SST によるエクササイズを実践してきた。また，本校の教育目標「創造する力 広い心 たくましい実践」の実現に向けて，知育部会では望ましい人間関係構築のために様々な学び合いの場面を設定し，適切な支援を模索していく。体育部会では，生活習慣の改善と体力向上に向けて，地域・保護者と連携した取組を推進していく。徳育部会では，他の部会との連携・協力のもと，生徒一人ひとりが役割をもち，活動・活躍できる場とそれを互いに認め合える場を設定していくことで望ましい人間関係に近づくことができると考える。

（２）公開授業

学年・組	単元・主題	授業者
１学年３組	学級活動 ～グループワークトレーニング～	教諭　宮田　雅仁
２学年２組	学級活動 ～合唱コンクールの目標を立てよう～	教諭　恩田　康一
３学年２組	学級活動 ～文化祭に向けたコラージュをつくろう～	教諭　阿部　光宏

（３）分科会

分科会名	協議題	指導者	提案者 及び 司会者
第１分科会	望ましい人間関係を築くことができる生徒の育成	指導者　笠井　孝　様 (長岡市立宮内中学校長)	提案者　宮田　雅仁 司会者　元井　啓介(南中)
第２分科会		指導者　山田　喜宏 様 (長岡市教育委員会学校教育課教育センター指導主事)	提案者　恩田　康一 司会者　高橋　龍雄 (宮内中)
第３分科会		指導者　伊藤　明夫 (長岡市立寺泊中学校長)	提案者　阿部　光宏 司会者　萱森　孝宏 (越路中)

＜協議内容＞

・第１分科会は，Q-U の結果非承認群の生徒が数学を得意としている点を学級活動の中に取り入れ，グループ活動を展開した授業である。班編成の意図とその問題点やシェアリングを行う必要性を協議した。・第２分科会は，Q-U の結果から非承認群の生徒が認められる場面や非建設的な行動をしている生徒への個別対応に配慮しながら「合唱コンクールに向けたパートごとの目標決定」を展開した授業である。学級としての目標設定の必要性や抽出生徒に注目した取組が評価された。・第３分科会は，合唱コンクールに向けてコラージュ制作を通し，互いに協力して取り組むグループ活動を展開した授業である。シェアリングを重ねる中で，発表時にも集中する姿勢が養われてきた。シェアリング以外でも学校行事後の「ありがとうメッセージ」などの他者評価も有効であると指摘があった。

（４）指導講評

第１分科会：①教育相談や Q-U などで結果の充分な分析など，その後のケアが疎かになる傾向にあるが，寺泊中は全職員で取組を行っているところがよい。調査結果をどう教育活動に生かすかが大切である。②深くかかわる人間関係づくり，生活づくりを大切に実践しなければならない。③行事の間に子どもたちの様子，成長を見ながら計画を修正し，柔軟に行われているものだった。子どもたちが生き生きと活動するために，４月から自信と見通しをもって進めることが大切である。

第２分科会：① Q-U で抽出生に焦点をあてたところが素晴らしい。②導入時のビジュアルや事前アンケートなどの工夫があり素晴らしかった。大事なルールなども画面で出すとよかった。③行動目標を３つに決定した場面で討論がないグループがあったが，日頃の積み重ねで前向きな姿勢があったためなのか。④教師の声かけが自然でよかった。例「きまりやマナーを考え始めているね」⑤３つの行動目標は何のためといった評価をさせ，見直しが必要である。⑥シェアリングについて，駄目な所を指摘するのではなく，褒める所を探し，毎時間続けていく方法を取るとよいと思う。
Q-U は万能薬ではない。教師自身の人間性が大事。教師が子どもたちに関わってもらうことが一番大切である。

第３分科会：①今までのオーソドックスなやり方でない迫り方で，特別活動の目標に迫る取組だった。②コラージュづくりは学級カウンセリングととらえる。カウンセリングは治療と予防があるが，コラージュは後者である。③今回のコラージュで生徒は，「多くの仲間から多様な意見を聞いて，自分の意見を改める」「自分の悩みは自分だけではないと分かる」「人のよさに気付いて自分が分かる」などを学ぶことができた。最終目標は，サイコエデュケーション（生徒がカウセリングマインドをもつ）である。しかし，教師と生徒との人間関係づくりも並行して行っていく必要がある。

２　成果と今後の課題

（１）成　果　・課題提示（ワークシート）を最初に示すことで，生徒は話し合いで大切な事を意識して活動することができた。(1 年)・行動目標を全員で決め，誰もが注意できる環境をつくることは価値があった。(2 年)・コラージュを使うことで一人一人が周囲に認められる場面が数多くあり，生徒の所属感や同じパートの仲間とよりよい関係づくりができた。(3 年)

（２）課　題　・アサーショントレーニングを行い，生徒が自分自身の性格に気付かせる指導も必要である。(1 年)・グループ内での行動目標を絞り込む際，活発な討論が見られなかった。討論を誘発すべくどのような支援が有効かを工夫する必要がある。(2 年)・パート毎にコラージュに込められた思いを，学級全員の思いとしてまとめるための一工夫が課題である。(3 年)